

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は、2021 年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 札幌市厚別公園陸上競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 競技開始後はフィールド内での練習を禁止する。
- 3) 本競技場を使用しての練習は競技開始の 15 分前までとする。
- 4) 投擲種目の練習は係の指示に従うこと。また、芝に空いた穴は修復すること。
- 5) 今大会では芝生内に立ち入りを禁止する。

3. ナンバーカードについて

- 1) 学連に登録した競技者は、各自の学連ナンバーカードを使用する。まだナンバーカードを受け取っていない競技者には、受付の際に団体ごとに学連ナンバーカードを配布する。
- 2) 腰ナンバーカードは各校が用意したものを使用する。4×100mRについては4走者のみ右側につける。個人トラック種目出場者については右側にのみつける。
- 3) また、3000m 以上の競技の出場者は通しナンバーカードを前後につける。通しナンバーカードについても各校が用意したものを使用する。

4. 補助競技場の使用について

- 1) 補助競技場への出入口は 100m スタート後方部分のみとし、その他の出入口は使用しない。
- 2) 今大会では芝生内の立ち入りを禁止する。
- 3) 安全確保のため、棒高跳、走高跳、走幅跳、砲丸投のピットへの立ち入りは禁止する。フィールド種目の練習に関しては、ハンマーの使用は禁止し、それ以外については補助競技場監察係の指示に従い、安全に留意して行うこと。
- 4) リレーの練習などで使用したマークは、各団体が責任をもって処分すること。
- 5) 補助競技場を除く競技場周辺において投擲物を用いた練習行為を禁止する。
- 6) 補助競技場の使用時間は大会の競技終了時間までとする。
- 7) 秩序のある練習をし、安全に留意して使用すること。
- 8) 補助競技場の芝生以外でのテントの設営を禁止する。

5. 点呼について

- 1) 競技者は指定された時間までに1次点呼(○付け)を行い、その後、各競技開始場所に直接集合する。
- 2) 1次点呼(○付け)・現地集合時刻は以下の通りとする。

	1 次点呼 (○付け)	現地集合時間
トラック競技	競技開始 30 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技(棒高跳を除く)	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒高跳	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前

- 3) 1次点呼(○付け)を行わない、または指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。

- 4) 代理人による招集最終確認は原則として認めないが、競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人による点呼を認める。その場合はその旨を競技者係にあらかじめ伝えておくこと。
- 5) 1次点呼(○付け)場所は、競技場第1ゲート付近(100m スタート付近)に設ける。
- 6) 1次点呼(○付け)終了時刻、及び現地集合時刻はプログラム記載の競技日程の通りとする。
- 7) リレー種目は、オーダー用紙(本部受付に用意)に走順・ナンバー・名前を記入し、1次点呼(○付け)終了時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。
- 8) 混成競技の招集は、その日の最初の種目のみ招集を行い、以後の招集は行わない。競技者は次の種目の実施場所へ移動し、混成競技者係の指示を受ける。

6. シューズについて

- 1) 各競技者は日本陸上競技連盟競技規則 TR5 に基づいたシューズを着用すること。

以下の表は日本陸上競技連盟陸上競技規則より抜粋した靴底の最大の厚さである。これ以上の厚さのシューズで出走することはできず、仮に基準より厚い靴で競技を行った場合は競技規則に基づいて失格となるので注意すること。

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目 (三段跳を除く)	20 mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25 mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、後ろの中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
ハードル種目を含む 800m 未満のトラック種目	20 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
障害物競走を含む 800m 以上のトラック種目	25 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路競技と同じとする。
競歩種目	40 mm	

- 2) 靴底の厚さ計測を行うため、1500m 以上の種目に参加するものは全員必ずレースで使用するシューズを指定の場所に持参しシューズの厚さ検定を受けること。検定はそれぞれの競技の開始時間 2 時間前から 30 分前までの間に1次点呼(○付け)場所(100m スタート付近)の横で行う。競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人での検定を認める。

7. 棄権について

- 1) 事前に棄権することがわかっている場合は、指定の期日までに指定の方式で申し出ること。
- 2) 大会当日、やむなく棄権する場合は、棄権届け(2枚)に必要事項を記入し、競技者係と本部へ提出すること。
なお、棄権届は大会受付(メインスタンド下役員審判控室)にあるので、取りに来ること。

8. 用器具について

競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。ただし、投擲物は個人所有のものを使用することができる(1次点呼(○付け)終了時刻1時間前に用器具庫で各々検査を受けて許可されたものに限

る)。この投擲物は、他の競技者も使用できる。(規則第 187 条)

9. 滑り止め(炭酸マグネシウムについて)

主催者側では用意しない。必要に応じて各個人が個別に持参すること。

10. トラック競技について

- 1) すべて写真判定とするが、万一、機器が故障し、復旧しない場合は、手動計時に切り替えて継続する。
- 2) 次の種目は、競技進行に遅れを生じさせる恐れがある場合のみ、次の条件で打ち切ることがある。制限時間は以下の通りとする。また、このタイムは変更の場合がある。

男子 3000m	15 分 00 秒	女子 3000m	18 分 00 秒
男子 5000m	18 分 00 秒	女子 5000m	22 分 00 秒
男子 10000m	40 分 00 秒	女子 10000m	45 分 00 秒
男子 10000mW	65 分 00 秒	女子 10000mW	70 分 00 秒
男子 3000mSC	15 分 00 秒	女子 3000mSC	18 分 00 秒

11. フィールド競技について

- 1) 走幅跳および投擲種目は全員が 3 回の試技を行い、それまでの記録の上位 8 人はさらに 3 回の試技を行う。
- 2) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- 3) 跳躍競技でのバーの上げ方は下記の通りとするが、状況により変更することもあり得る。

男子 棒高跳	練習 2m00	試技 2m00 より 10cm
女子 棒高跳	練習 2m00	試技 2m00 より 10cm

- 4) 走幅跳は、参加人数等場合によっては 2 つのピットにわかれて行う。
走幅跳では、男子 4m50、女子 3m50 に満たない記録は、計測しない。
- 5) 砲丸投は男女同時に行うことがある。

12. 抗議について

- 1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表(アナウンス)されてから 30 分以内に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。
- 2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は抗議申立書と預託金 10,000 円を添えて上訴する。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。
- 3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

13. その他

- 1) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行うこと。※役員・補助員による運搬は行わない。
- 2) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品等については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。
- 3) 競技中の事故等による身体の故障の場合、応急処置を行うが、その後の治療等は本人負担とする(競技者保険の適用)。また、事故の結果について本連盟は一切責任を負わない。
- 4) 大会期間中に出了ゴミは、必ず各自で持ち帰ること。
- 5) 競技者(選手)がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じられる場所からの撮影は禁止する。また、撮影をしている場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内容の確認をする場合があ

る。

- 6) 不審者等いたら、大会本部まで連絡すること。
- 7) その他、不明な点は大会本部に問い合わせること。